

(別紙様式3)

令和5年3月31日

研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所 山梨県甲府市丸の内1丁目6-1
管理機関名 山梨県教育委員会
代表者名 教育長 手島 俊樹

令和4年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発完了報告書を、下記により提出します。

記

1 事業の実施期間

令和4年4月1日(契約日)～令和5年3月31日

2 指定校名・類型

学校名 山梨県立甲府第一高等学校

学校長名 安達 徹

類型 グローカル型

3 研究開発名 「やまなし創世」に資するグローバルリーダーの育成
DOOR-扉を開いて-

4 研究開発概要

山梨県のような課題をSDGsと関連づけ、産学官連携のコンソーシアムを通じ多様な人達と協働的に研究して、それらの成果を県内外や国外に発信する。また、国際未来探究フォーラムの開催などにより国際的な対話力を養い、ローカルな視点とグローバルの視点をもった課題解決能力を有した人材を育成し、山梨県における学びのモデルを開発する。

5 学校設定教科・科目の開設、教育課程の特例の活用の有無

- ・学校設定教科・科目 開設している
- ・教育課程の特例の活用 活用している

6 運営指導委員会の体制

氏名	所属・職	備考
奥田 徹	山梨大学生命環境学域長	学識経験者
熊谷 隆一	山梨県立大学国際政策学部長	学識経験者
篠原 健	山梨県総合教育センター所長	学校教育に専門的知識を有する者
眞田 健康	山梨県知事政策局政策企画グループ政策参事	関係行政機関の職員
戸田 達昭	シナプテック株式会社代表取締役 CEO	カリキュラム開発等専門家

7 高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

機関名	機関の代表者
山梨県立甲府第一高等学校	校長 安達 徹
山梨県立笛吹高等学校	校長 廣瀬 志保
山梨県立笛吹高等学校	教諭 古屋 寛往
山梨県教育庁高校教育課	指導主事 大久保まさみ
山梨大学生命環境学部地域社会システム学科	教授 渡邊 幹彦
山梨県立大学国際政策学部国際コミュニケーション学科	教授 吉田 均
山梨学院大学国際リベラルアーツ学部 (株)少國民社	教授 ウイリアム・リード 代表取締役社長 依田 訓彦
山梨県立甲府第一高等学校同窓会	事務局長 石原 三義

8 カリキュラム開発等専門家，海外交流アドバイザー，地域協働学習支援員

分類	氏名	所属・職	雇用形態
カリキュラム開発等専門家	戸田 達昭	シナプテック株式会社代表取締役 CEO	非常勤
海外交流アドバイザー	Will Rogers	山梨県教育庁高校教育課 PA	ボランティア
地域協働学習実施支援員	石原 三義	甲府第一高等学校同窓会事務局長	非常勤

9 管理機関の取組・支援実績

(1) 実施日程

① 運営指導委員会

活動日程	活動内容
令和4年4月1日	運営指導委員会設置要綱を定め施行する。
令和4年5月31日	第1回運営指導委員会（本年度事業内容はじめ、評価や成果発表会の事柄についての協議。指導・支援体制についての確認）
令和4年10月20日	第2回運営指導委員会（コンソーシアム推進協議会と合同開催）事業中間報告会として設定。事業指定終了後の方向性を中心に協議しアドバイスをいただく。
令和5年3月18日	第3回運営指導委員会（コンソーシアム推進協議会と合同開催）報告会（山梨ブランドサミット）を受け、成果を検証。

② コンソーシアム推進協議会

実施日程	業務項目
令和4年4月1日	コンソーシアムを組織
令和4年7月24日	笛吹高校と協働で「農業シンポジウム」実施。1年生の基礎となる農について、3名の講師型基調講話をいただき、ディスカッションを行う。
令和4年7月上旬	山梨大学教育学部附属中学校とのプレゼン交流を計画。本校開催の国際未来探究フォーラム（一探未来フォーラム）への参加を計画。また、年度末の本校生徒発表会（山梨ブランドサミット）への中学生のプレゼン参加等について協議。
令和4年10月20日	第1回コンソーシアム推進協議会。相互にお互いの必要とする情報等を補完し、課題解決に向けた取り組みをしていくことを確認
令和5年3月18日	第2回コンソーシアム推進協議会（運営指導委員会と合同開催）中間報告会（山梨ブランドサミット）を受け、成果を検証

(2) 実績の説明

①管理機関による事業の管理方法や地域において構成するコンソーシアムの構成

〈コンソーシアムの構成団体／産・官・民・学で構成〉

- ・山梨県教育委員会高校教育課，義務教育課　・山梨県知事政策局政策企画グループ
 - ・山梨県観光文化部　・山梨県農政部　・山梨県産業労働部　・甲府市教育委員会
 - ・笛吹市教育委員会　・甲府第一高等学校（＊）　・笛吹高等学校（＊）
 - ・山梨大学生命環境学部地域社会システム学科（＊）
 - ・山梨学院大学国際リベラルアーツ学部（＊）
 - ・山梨県立大学国際政策学部国際コミュニケーション学科（＊）
 - ・山梨大学教育学部附属小中学校　・株式会社少國民社（＊）
 - ・甲府第一高等学校同窓会（＊），保護者会
 - ・シナプテック株式会社，Mt.Fuji イノベーションエンジン
- （＊）はコンソーシアム推進協議会の委員を兼ねる

②カリキュラム開発等専門家の配置と業務

〈カリキュラム開発等専門家〉シナプテック株式会社代表取締役 CEO 戸田達昭氏

地域や学校のニーズや現状・課題の分析を通じたカリキュラム開発及び人材の発掘・教育資源の収集・整理等のプロジェクトマネジメントに係る業務を担う。

活動日程	活動内容
令和4年5月27日	「グローバルリーダー育成セミナー」を開講
令和4年9月上旬	コンソーシアムでもある Mt.Fuji イノベーションエンジンを母体とする Y-NEXT（高校生向け起業チャレンジ事業）を本校と連携して推進していく方針を決定
令和5年 1月17日～24日	1，2年生の各探究班に対し探究活動内容のブラッシュアップを図り，企業人メンターを派遣しブラッシュアップを図る。またそれ以降も生徒の活動に対応した企業人等に繋いでいただく。

③海外交流アドバイザーの配置と業務

〈海外交流アドバイザー〉山梨県教育庁高校教育課 Will Rogers 氏

外国人との深いつながりを通じて，国際競争力スキルアップ講座，国際未来探究フォーラム，海外研修旅行において，グローバルな視点で計画段階からのアドバイザーとしての役割や，本事業について外国人に広く活動を広めてもらう広報の役割を担う。

活動日程	活動内容
令和4年10月7日	「イングリッシュプレゼンテーションセミナー」《理論編》を実施
令和4年10月29日	「イングリッシュプレゼンテーションセミナー」《実践編》を実施。実践編では2年探究班計12班に対し県内ALTを7名動員。指導の充実を図る。
令和5年3月18日	成果発表会（山梨ブランドサミット）にて7名のALTを派遣し，担当班の講評を行う。

④地域協働学習実施支援員の配置と業務

〈地域協働学習実施支援員〉石原三義氏（甲府第一高校同窓会事務局長）

各教科や科目・総合的な探究の時間等の実施時における外部機関（OB や行政，産業界など）と学校と生徒をつなぐ業務を担う。

日程	内容
令和4年7月	年度計画にある国際未来探究フォーラム（一探未来フォーラム）の在り方についての協議，及びパネリスト陣を紹介いただく

⑤管理機関（コンソーシアム含む）による主体的な取組

- ・運営指導委員会，コンソーシアム推進協議会の運営・連絡調整
- ・行政との連携に関わる連絡・調整
- ・コロナ禍における事業変更等における指導・助言
- ・予算執行に関わる指導・助言

*コンソーシアムによる取り組みについては9（1）参照

⑥国費に上乗せした独自の支援や取り組みの実施

特記事項なし

⑦継続的な取組を行うための教員の人事面における配慮

特記事項なし

⑧高等学校と地域の協働による取組に関する協定文書等の締結状況について

令和2年3月24日，本校は，山梨大学生命環境学部と「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」の実施に際し，高校教育と大学教育の連携を促進，多様化する高校と大学の教育を円滑に接続することにより，高校の教育の改善充実を図ること及び生徒の将来の進路選択に資するために覚書を交わす。なお，内容は以下のとおりである。

- 1 カリキュラム開発への協力
- 2 学習支援
- 3 運営指導
- 4 カリキュラムの評価
- 5 その他 本事業推進に関する事項

⑨事業終了後の自走を見据えた取組について

- ・本校では特に1年次の段階での探究の基礎基本の習得を目指してワークシートの開発に力を入れている。
- ・コンソーシアムを構築し，行政（県農政部や知事政策局等）との関わりを持つ中で，社会課題を共有し，双方向のメリットを模索しながら友好的な関係性が保たれている。また，地域活性化や国際社会の様々な課題（SDGs）を見据え，協働して取り組むことが可能である。
- ・地域協働学習支援員の役割は，事業終了後も地域との協働学習の窓口として期待できるため，本校同窓会事務局長の役職にあたる方をお願いしたい。
- ・同じく，保護者会（PTA）から講師をお願いする機会も多く，教育活動の資源として双方向にメリットを求め関係性の構築に努めている。
- ・様々な教育助成事業があり，不安定な社会構造を見据える教育界のニーズに照らし合わせて助成を得ることも可能と考える。

10 研究開発の実績

(1) 実施日程 *主だった実績のみ記載。

実施項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
運営指導委員会		○					○					○
コンソーシアム 推進協議会							○					○
連携大学講座				1回			1回	1回				
行政との連携講座		1回				2回						
イングリッシュプ レゼンテーション セミナーの実施							2回					
国際競争力スキ ルアップ講座			2回	2回	1回	2回	2回	1回				
その他の講座、 セミナー等開催				1回	2回			1回		3回		
国際未来探究フ ォーラムの開催						2回						
その他フォーラ ムの実施				1回								
実地調査探究活動	コロナ禍において県外は実現せず。県内では時期やエリアを選択しながら通年実施											
発表会の実施			1回		1回					1回		1回
研修旅行									○			
企業訪問の実施			1回		1回				1回			
Y-NEXT プログラ ム							2回				1回	1回
八ヶ岳 SDG s ス クールとの連携	通年,月例ミーティングに生徒参加											

(2) 実績の説明

①研究開発の内容や地域課題研究の内容について

各班の取り組み一覧 (①は1班を示す)

□1年

①映画を通じた健康維持 ②食の砂漠化 Food desert ③アニマルウェルフェア(AW)を山梨に普及しよう! ④集客方法を模索したい! ⑤減らそう,山梨の空き家 ⑥わくわく探検隊~山梨の新しいの新しい魅力を発信しよう ⑦外国人にもフレンドリーな山梨県 H70H54 ⑧すべての子どもをまんぷくに ~子どもによりそう居場所を~ ⑨山梨の鹿 救出だいせくせん! ⑩助かる命を助けるために~命を繋ぐ E-Call~ ⑪棚田×スイーツ ⑫笑顔の宅配便 ⑬未来都市計画~空飛ぶクルマを移動手段として確立した街をメタバース上で再現する~

□2年

①How to break the Negative Emotional Chain (ネガティブ連鎖を断ち切ろう!) ② Inheritance of Hanko Culture (はんこ文化の継承) ③The Best School Schedule (最高の学校スケジュール) ④Protect "TANADA" for future(棚田を後世へ) ⑤Green makes clean environment(クリーンカーテン) ⑥Small Hydropower Generation (小水力発電) ⑦How to

reduce flooding with Seigyu(治水と減災) ⑧Changing food waste (みんなで変えよう生ゴミ) ⑨ONIGOKKO U- 100 (鬼ごっこU- 100) ⑩HERITAGE OF SHOSENKYO(知る・行く・繋げる昇仙峡) ⑪We will bring you the right form of reading~Diverse reading methods to relieve stress~. (あなたに合った読書のカタチをお届けします~読書でストレス緩和を~) ⑫Mutual Teaching(教えて学ぶ)

□3年

①Enjoy Speaking English ②ジェネリック医薬品を普及させるためには~子どものジェネリック医薬品の使用率向上~ ③農家の人手不足~アプリで農家と山梨県民をつなぐ~ ④水力×街~灯で持続可能なまちづくり!!~再生可能エネルギーの普及~ ⑤農業×先端技術~スマート農業で日本の農業を変えていく~ ⑥故きを訪ねて新しきを伝える~山梨県北部に残る信仰の道「御嶽古道」について~ ⑦地域包括型社会の実現に向けて~子ども食堂を使ったひとり親家庭の支援数を増やすには ⑧Siesta PROJECT~昼寝が日本を変える! ?~ ⑨地域コミュニティ×人口減少~過疎化に向けて私たちができること ⑩ゲームで健康になろう ⑪音楽と生活~音楽と食欲の関連性について~ ⑫Life with MYBOTTLE ペットボトル削減に向けたマイボトル普及 ⑬ホテル避難の可能性~災害関連死をなくすために~ ⑭非認知スキルアップで貧困脱出へ~SESの低い児童の学力向上についての方策提案~ ⑮音を用いた鹿撃退装置~楽で簡単な鳥獣対策を~

②地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置付け(各教科・科目や総合的な学習(探究)の時間、学校設定教科・科目等)

- 1) 「総合的な探究の時間」を「グローバル探究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」に代替(1・2・3年次)
- 2) 学校設定科目として「Advanced Practical English」(4単位)(2年次)
- 3) 学校設定科目として「グローバル公共」(1単位)(2年次)

③地域との協働による探究的な学びを取り入れた各科目等における学習を相互に関連させ、教科等横断的な学習とする取組について

- ・教科英語の実践とし、身近な社会問題をトピックに上げた教材を作成し、ALTと協働しながらの英語でのポスター作成を取り入れ、パブリッシャーを使って探究ポスターを作成している。
- ・教科国語の実践とし、プレゼンの仕方、効果的な聞き方、構成を意識して書く、といった力の育成に努める。
- ・教科理科(科学と人間生活)において、実験、実習を通じてデータの作成、プレゼンする方法等の育成に努めた。
- ・教科芸術(美術)の実践として、視覚伝達デザインの授業においてポスターを作成。その原理や効果的な表現技術を習得させた。
- ・その他、すべての教科において横断的思考が働くと考えられる。逆に、探究活動が教科学習にも横断的に反映することが認められる。

④地域との協働による探究的な学びを実現するためのカリキュラムマネジメントの推進体制

- ・運営指導委員会及びコンソーシアム協議会における検証、評価活動
- ・カリキュラム開発等専門家・戸田達昭氏による専門的なアドバイス

⑤学校全体の研究開発体制について(教師の役割、それを支援する体制について)

- ・1~3年の全40班に対し探究顧問を配置。教科の特性を生かした専門的なアドバイス、プレゼンテーション指導、及び渉外業務を担当する。また、2年生12班に対し英語顧問

- 並びに県下 ALT 顧問を配置。英語プレゼンテーションの指導を担当する。
- ・校内探究科運営指導委員会を設置し年間 3 回開催。校内探究科で取り組む指定事業を多面的に検証し、有意義かつ効率的な運営を目指す。
- ⑥カリキュラム開発専門家、海外交流アドバイザーおよび地域協働学習実施支援員の学校内に置ける位置づけについて
- 3 頁 (2) 実績の説明参照
- ⑦学校長の下で、研究開発の進捗管理を行い、定期的な確認や成果の検証・評価等を通じ、計画・方法を改善していく仕組みについて
- ・指定事業担当教頭を配置する。また、統括主任として探究科主任を配属し、探究推進主任を中心に 9 名のスタッフ教員で実際の校内運営を行っている。なお、毎週の定期的な打ち合わせと管理職はじめ関係部署（コンソーシアム含む）への報告、連絡、相談体制を整えている。
 - ・学校評価委員会による探究活動の評価、改善の試み
- ⑧カリキュラム開発に対するコンソーシアムにおける取組について
- ・中学校との交流プレゼン並びに小中学校への出前授業の実践（双方向学習に向けた良好な関係性の構築）
 - ・NPO 法人八ヶ岳 SDGs スクールと連携し、月例ミーティングへの参加（プレゼンターとしての参加含む）
 - ・SDGs に立脚した各種新規大会（コンソーシアム関連）において、探究科の実践発表を率先して行うことで、波及効果がもたらされる。
- ⑨運営指導委員会等、取組に対する指導助言等に関する専門家からの支援について
- ・ 9 (1) 参照
- ⑩類型毎の趣旨に応じた取組について 【グローバル型】
- ・「イングリッシュプレゼンテーションセミナー（理論／実践）」の実施。特に実践編では各探究グループに 1 名の顧問 ALT が指導に当たり成果を残した。
 - ・従来であれば台湾研修でのコンソーシアム校との連携事業、また研修旅行（フィリピン・セブ島）にて学校や日系企業に赴き、探究成果を現地で発表し、ディスカッションを通じて実践的なコミュニケーション能力を育むのであるが、本年度はコロナ禍で代替的に 2 泊 3 日の「イングリッシュキャンプ」を実施（3 月 19 日～21 日）。「グローバルメンターの人生と異文化を魅力的に発信せよ！」というミッションを設定。22 名の希望者が受講する。
 - ・国際コンテストや他各種コンクールへの応募は 2 年次の必須として積極的に応募を試みた。（主だった成果は下記本年度実績参照）
 - ・本校は、「本当の情報は現場の空気の中に漂っている」をキャッチコピーに 1 年次より実地調査を励行している。県内を中心にグローバルな現場の生の情報に触れ、探究を深めた。また、企業メンターによる積極的な人材紹介もあり、発展的な探究実践に結び付いた。
 - ・コンソーシアムとして連携している県立笛吹高校では県産シャインマスカット（葡萄の品種）の台湾への輸出演習に取り組んでいる。過年度に本校生徒代表が基礎中国語を習得したうえ同行し、成果を共有した経緯を持つ。本年度は実施できなかったため、来年度に期待している。そこで「国際競争力スキルアップ講座」として、1, 2 年生希望者に対し、中国語特別講座を開講した。

⑩成果の普及方法・実績について

- ・ 出前授業とし、小中学校へ出向くことを計画（来年度実施予定）。
- ・ イベントやコンクールへの参加（論文含む）を促し情報と探究成果を発信する
- ・ 3年次実施の「ファイナルプロポーザル（提案活動）」において探究成果を地域へ還元
- ・ 主体的校内組織による国際探究未来フォーラムの実践，及び Social media 班による SNS や本校 HP を媒体とした情報発信を行う。

〈本年度実績〉＊主だったもののみを掲載

- ・ NPO 法人八ヶ岳 SDGs スクール月例ミーティングにおいて，年間を通し多くの探究班がプレゼンし，成果を普及するとともに，企業人と交流を図りながら発展的な探究を行った。
- ・ マイクロプラスチック探究班「プラガール」が，山梨マイクロプラスチック削減プロジェクト機関誌で取り上げられ，また，企業と独自開発した「マイボトル」の普及に取り組む。
- ・ 棚田普及に取り組む班が，オーナー田にて市民や近隣小学生とともに田植イベントから収穫，「神おむすび」の商品開発を通し，魅力発信に尽力した。またこの取り組みが，テレビ東京「CHANGE MAKER U18 未来を変える高校生日本一決定戦」にて大々的に全国放送された。結果は全国準優勝。
- ・ 発明学会主催「身近なヒント発明展」において，ごみ削減に取り組む班がアイデア賞を受賞。また，特許庁実用新案登録「吊り下げ式生ごみ絞り機能付き使い捨て水切りゴミ袋」を得た。
- ・ 地元の御嶽古道の歴史探究班が論文を作成するとともに，地元大学の「観光まちづくり概論」の一環で，特別講義を実施，大学生 40 名ほどを前に探究成果と地域資源の魅力を発信した。
- ・ 第 16 回全日本高校模擬国連大会にて有志 2 名が本選に出場し「多国籍企業及び社会政策に関する原則の三者宣言」というテーマで臨んだ。
- ・ 全国高校生ビジネスコンテスト（日本経済大学主催）において「快適な学校活動を目指して」というテーマで 566 件の応募作品の中から上位 8 案に選ばれ，決勝大会へ進出。
- ・ 県主催の「YAMANASHI SDGs FORUM2023」において，探究班全班が出場。1 年生はポスター掲示，2 年生は英語にてプレゼンを行い，発展的な交流を図った。

1 1 目標の進捗状況，成果，評価

(1) 目標設定シートの考察 〈添付資料〉目標設定シート（実績値記入版）参照

1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）

a 英検 2 級または CEFR の B1 以上の生徒数

年次が増すにつれ資格取得に向けた取組が顕著であり，英語力の向上がうかがわれる。

b 将来山梨で働きたいと考える生徒の割合

探究科、普通科問わず 3 分の 1 の生徒が地元就職志向を示している。表では強い意志を持った生徒のみ反映させている。

c トビタテ留学 JAPAN, YFU, ロータリー等，留学する生徒や受け入れる生徒の合計人数

コロナ禍の影響で，国際交流系の事業はしばらく困難であると予想される。

2. 地域人材を育成する高校としての活動指標（アウトプット）

a 研究・課題発表大会等での上位入賞者数

本校では、特に2年生においてコンテスト等への応募を必修にしており、目標設定値を上回る成果が得られた。来年度以降もコンテストを活用し探究活動の深化に努めたい。

b 推進校主催の発表会等の外部参加者数

発表会は例年通りの規模で開催するものの、コロナ禍にあつて参加制約を設けなければならない事情の中で、今年度は低迷した。オンライン参加の普及も図り、改善していきたい。

3. 地域人材を育成する地域としての活動指標（アウトプット）

a 学校設定科目（グローバル探究）で外部人材が参画した延べ人数

大学講座や行政によるセミナーをはじめ、コンソーシアムの協力を得ながら多くの外部講師の指導をいただくことができた。各回でディスカッションを充実させ、目標とする力の育成を図った。なお、各探究班毎に外部と連携している数値を加味すると目標値を大きく上回る。

(2) 本校独自のアンケートについて

年度のはじめと終わりに同様の質問（25問）について1年から3年までの探究科の生徒にアンケートを実施した。今年度も、新型コロナウイルスの影響で探究科の活動は制約を終始受けることとなったが、アンケート結果は良好であった。

なお、報告書紙面制限の関係により、アンケート結果、考察等については後日提出する成果物「報告書冊子」の中で報告させていただく。

1 2 次年度以降の課題及び改善点

昨今の探究ブームやSDGsの推奨の波を受け、その波に乗りながら本校探究科は重要なポジションに位置している。3年間の「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」は、産学官民のコンソーシアム構築によって、様々な応援をいただきながら生徒は有意義な探究活動に邁進できている。一方で、コロナ禍の活動は様々な行動制約を受けたが、オンライン普及は結果として主要な日常ツールとして定着した。

本事業を通して、良好な環境整備と生徒のモチベーションの高揚が図れたと感じている。次年度以降においても、この流れを踏襲した形で発展的な学習に臨んでいくことが本校としての使命であると考えている。そのことを踏まえ、本年度までの課題として、①探究を深化させる高度な学びの提供の必要性、②コロナ禍での国際交流の減少と英語で議論する力の育成、③教員間での目的やノウハウの共有という3点の課題を上げ、これに対する中長期目標として、個別最適化した高度な学びの提供と連携校への各学習プログラムの拡大、②国境を越えた合同カリキュラムの開発と高校生国際会議の定期開催といったスキルを掲げ、「やまなし創世ネットワーク」の創設を目指していきたいと考える。

【担当者】

担当課	高校教育課	TEL	055-223-1763
氏名	大久保まさみ	FAX	055-223-1768
職名	副主幹・指導主事	e-mail	ookubo-hcjj@pref.yamanashi.lg.jp